



君も今日から考古学者！

—横浜発掘物語 2024—

活動報告

- 休館中の横浜市歴史博物館
- 学習院大学輔仁会史学部 OB インタビュー！

資料紹介

- 笠木治郎吉の水彩画
- 完了報告 向導寺阿弥陀如来坐像修理

ミュージアムショップより

大塚・歳勝土遺跡公園だより

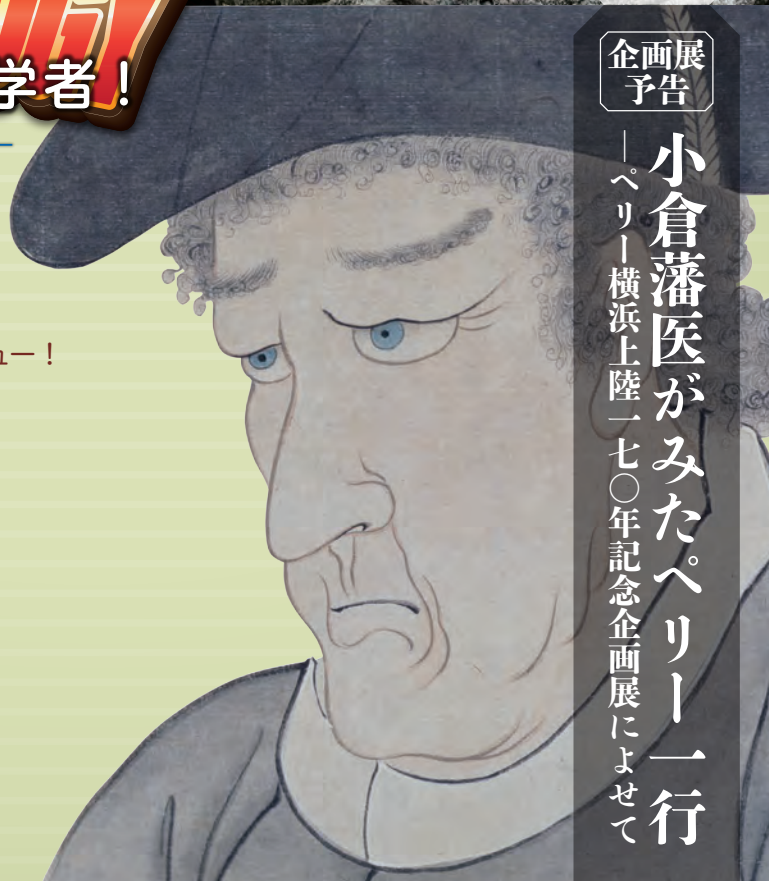
歴博ファーム通信⑦

館長コラム vol.5

ヨコハマの輸出工芸展

企画展
予告

小倉藩医がみたペリー一行
—ペリー横浜上陸一七〇年記念企画展によせて



ヨコハマの輸出工芸

—— 横浜眞葛焼・横浜芝山漆器・
横浜彫刻家具・横浜輸出スカーフ ——

幕末期の開港とともに始まる海外との貿易において、日本から工芸品や美術品も多く輸出されるようになりました。その後、欧米の好みに添うような形や文様といった工芸品が制作されるようになり、港がある横浜でも制作が行われるようになりました。このような時代のニーズに合わせた輸出品・工芸品のうち、横浜眞葛焼、横浜芝山漆器、横浜彫刻家具、横浜輸出スカーフをとりあげた展示を行っています。

横浜眞葛焼「鷹ガ巢細工花瓶（一对のうち）」（宮川香山眞葛ミュージアム所蔵）【写真1】や、横浜彫刻家具「洋箆筒」（当館所蔵）【写真3】に見られる、明治期工芸の独特なスタイルともいえる立体的な装飾による意匠や模様。このスタイルは、日本から欧米への輸出拡大という当時の国策を追い風に、折からのジャポニスムブームと相まって、国内外に多大なインパクトを与えました。

また、これら輸出工芸品は、職人集団の分業制による制作という共通性も持っています。横浜眞葛焼であれば、成形工や画工。横浜芝山漆器であれば、絵師や塗師、蒔絵師、彫込師といったそれぞれの職人たちによる分業制によって、制作できる数量を確保するとともに、職人たちの高い技術力による作品であったため、美術品としても高く評価された工芸品であったことが特徴です。

横浜眞葛焼は、人気の流行り廃りに合わせるように、立体的な意匠の流行が下火になる前に作風を転換・変更した対応を行いました。このように時代に即した対応力を持った横浜眞葛焼ですが、昭和二十年（一九四五）の横浜大空襲により窯や工房などが被災し焼失、その歴史を閉じています。横浜芝山漆器は、欧米の需要に應えるために前述のように絵師や彫込師といった分業制を行い、最盛期には数百人も職人が横浜にいたと言われています。そんな横浜芝山漆器も、関東大震災や横浜大空襲などの災害に

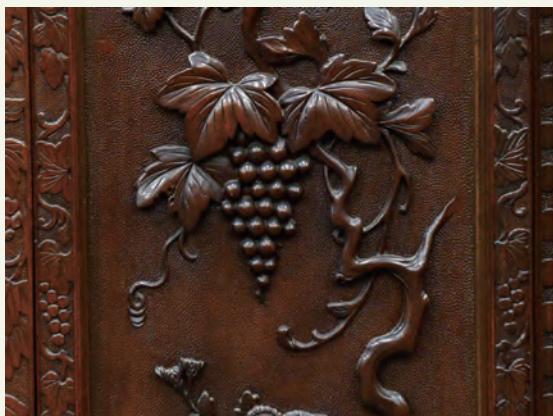
よる被害や、職人たちの離散などの理由から、昭和三十年代には作られる数はごくわずかになってしまいました。このような状況下において、横浜市では「伝統的地場産業育成事業」の一環として昭和五十二年度から横浜市中企業指導センター支所（現横浜市工業技術支援センター）が支援をはじめ、販路を輸出向けから国内向けに転換するための新製品の開発と、後継者不足の解消のための技術継承を目的とした「横浜芝山漆器研究会」の設立（昭和五十五年）を行いました。

横浜彫刻家具は、社寺建築に見られる彫刻の技法「宮彫り」を取り入れ、龍や松竹梅などの東洋的意匠を、テーブルや箆筒などにあしらった和洋折衷の家具で、一八九〇年代の後半から一九三〇年代まで、主に輸出用として製作されるとともに横浜居住の外国人邸宅でも使用されました。横浜彫刻家具「洋箆筒」は、大正末〜昭和初頭に作製されたものです。

横浜輸出スカーフは、開港（安政六年（一八五九））して間もない時期のハンカチーフ（手巾）製造から始まり、昭和初期には、海外からの注文をもとにスカーフを製造するようになります。浮世絵や草双紙などの普及によって発達した木版刷り「捺染」によるスカーフの染織は、大正から昭和初期まで行われ、その後、昭和初期には、絹のスクリーンに柄となる部分を覆った型版を用いて生地の色を重ねていく「スクリーン捺染」という技術が導入されると、蒸しによる色止め、水洗による余分な染料などの洗い落としなどにより、色落ちのしない美しい製品が作られるようになります。その結果、一時、横浜輸出スカーフは世界のスカーフ生産の約六〇％を占めたほどに成長しました。

横浜を冠するこれらの資料が一堂に会する貴重な機会です。輸出工芸の歴史を概観するだけでなく、「世界に通じる魅力」も感じていただければと思います。

（文 小林光一郎）



【写真3】横浜彫刻家具「洋箆筒」（部分） 当館所蔵



【写真4】横浜芝山漆器「芝山魚紋 鉢」 当館所蔵



【写真5】横浜輸出スカーフ「果物かご」 当館所蔵

ヨコハマの輸出工芸展

令和6年2月3日（土）～3月10日（日）

休館日：毎週月曜日（ただし2月12日は開館）、2月13日（火）

*本展は「令和5年度 横浜市指定・登録文化財展」と同時開催です。



【写真1】横浜眞葛焼「鷹ガ巢細工花瓶（一对のうち）」
宮川香山 眞葛ミュージアム所蔵



【写真2】横浜眞葛焼「黄釉鶏画花瓶」
宮川香山 眞葛ミュージアム所蔵

見どころ紹介

君も今日から考古学者！

—横浜発掘物語2024—

大塚君

ジョー君

横浜市歴史博物館の春の恒例、考古学の入門展示『君も今日から考古学者！—横浜発掘物語2024—』を本年は3月30日(土)から6月23日(日)まで拡大して開催します！今回の展示について、見どころを皆さんから聞いてみようと思います。

遺跡が土に埋まっていくようすを観察したり、本物の土器を触ってみたいと体験しながら考古学をまなぶことができるツクル。

今年は展示室で発掘調査を体験できる日があるらしいよ。とっても楽しみだね！



土の中から土器を探すだけではなく、どこから見つけたのか記録をしないとイケないのよ。ジョー君にちゃんとできるかしら？

できらあっ！

あら、じゃあどっちがしっかりと記録できるか競争ね。

すりーでーがどうのこうのと聞いたけど、良く分からなかったな。

3Dですよ。土偶などの一部ですが本物と3Dモデルをいっしょに見ることができるらしいよ。



学芸員Y



レックル



やよいちゃん



スー



ズッキ



かんちょう

全部じゃないのね。

全部できれば良いのですけれどね…

わたし(おれ)たちへの質問はないの？

今年も来館してくれた皆さんからの質問を受け付ける予定です。またこれまでの質問を少しまとめることが出来たらなとも考えています。

博物館の隣の大塚・歳勝土遺跡のコーナーはどうなるの？

常設展示室のものとはまた違ったジオラマを出してみようかなと思っています。収蔵庫にしまっている大塚遺跡の土器をたくさん出して皆さんにお見せできればと思っています。



Y君は最近野良仕事ばかりしているが大丈夫なのかね？

だいじょうぶって言ってたツクル。

田んぼの写真とかをコソコソと準備していたよ。

展示以外にも土偶づくりやたたら製鉄、茅葺屋根の屋根ふき、おかしづくりとかいろいろな体験をやるんだって。おかしづくりは気になるわね。



ドッキー



銅鏡チョコ

今年も盛りだくさんで皆さんのご来館をお待ちしています。

(みんな) お待ちしていまーす！

キャラクターデザイン：やなぎ堂

君も今日から考古学者！
—横浜発掘物語2024—

2024年3月30日(土)～6月23日(日)
令和6年3月30日(土)～6月23日(日)



改訂新版 海にできた新田 刊行のお知らせ

江戸時代、人口増加が進み、農地を増やすために新田開発が盛んにおこなわれるようになりました。このことを題材とした企画展「近世横浜 海岸部の新田開発」が平成二十二年（二〇一〇）九月に開催され、展示に合わせて刊行した図録のほか、小学校四年生向けの十五頁の『海にできた新田』を刊行しました。この度、令和六年二月に改訂新版を刊行します。

本書は江戸時代に横浜地域で開発された新田、帷子川河口の新田、鶴見川河口の新田、平潟湾の泥亀新田などを紹介しています。埋め立てられた新田がある鶴見区・中区・南区・西区・金沢区などの小学校の授業の副読本に最適ですが、大人にもわかりやすい内容となっています。

シリーズもので同じく小学校四年生向けの『吉田新田ができるまで』も大変好評で、こちらも横浜市の多くの小学校の社会科副読本として活用されています。中区の大岡川と中村川にはさまれた地域は、江戸時代に入り海を埋め立てた吉田新田で、周辺の村々や海を埋め立てる方法、材料、道具などを紹介しています。『海にできた新田』と合わせてご購入をお勧めします。セット購入することにより新田についての理解が深まること間違いありません。

当館ミュージアムショップとオンラインショップにて好評発売中です。（文 野口文恵）



改訂新版『海にできた新田』
デザイン一新！
内容も更にわかりやすく改訂
300円（税込）
A4判、15頁、オールカラー

『吉田新田ができるまで』
平成30年（2018）に
改訂新版として刊行
300円（税込）、A4判、15頁、オールカラー



改訂前の
『海にできた新田』
（完売）
多くの小学校の
副読本として
ご活用いただき
ました



企画展 名画展

当館では、おもに横浜開港以前の横浜地域の歴史・文化・人々の生活にかかわる資料を収集しており、その中には、今年横浜上陸一七〇年となるペリーに関する資料も含まれています。すでに企画展等で紹介してきた資料もありますが、一方で、近年収集し、お披露目の機会を待っている資料もあります。

その一つに、「横浜日記」と題した資料があります。作者は、当時小倉藩の藩医をつとめていた「桐原鳳卿」という人物です。小倉藩は、嘉永七年（安政元年、一八五四）のペリー再来航の時に、松代藩とともに横浜応接所の警衛を幕府から命じられました。桐原も藩医として横浜に出張しました。日記は嘉永七年一月のペリー再来にはじまり、三月の退帆とそれに伴う小倉藩の警衛終了・江戸への帰還で終了しており、その期間に起こった出来事や、横浜とその周辺の様子が綴られています。さらに、小倉藩士たちや桐原が滞在した宿所、

小倉藩医がみたペリー一行 —ペリー横浜上陸一七〇年記念企画展—

ペリー一行の人物や道具などの図も別冊で残されています。当館所蔵の「横浜日記」は、「大池善職」（詳細不明）なる人物が安政三年（一八五六）に筆写した写本ですが、当時の状況が生き生きと伝わってくる貴重な資料には変わりありません。

日記には、もちろん嘉永七年二月十日のペリー一行の横浜初上陸についても記されており、艦隊の威容や、一行の服装や武器、楽器などの形や意匠について詳細に書き留められています。さらには、次のようなエピソードも記されています。

「外国人から「名札」を希望されたので、名を伝えてさらに「医師何某」と記したところ、外国人は「くん（訓）」を二度ほど口真似して覚えた様子で、桐原の手を二度ほど握り、会釈などをして親しんできた。桐原は振り払おうとしたが、放さなかった。後ほど彼からも、紙も書も「美事」な「名札」が送られてきて、読むと「トクトルサームスグリヤム」という人物だった。ドクトルは「医」ということで、今日会った外国人が自分と同じ医師だったのも、めったにな

く貴重なことであった。（概略）

幕府役人とペリーたちの応接のさなか、桐原は偶然にも外国人の医師と「名刺交換」したというわけです。この時、小倉藩とともに警衛にあたっていた松代藩の佐久間象山も、外国人がやってきて鉄砲などを見せたことを妻への手紙に記しており、応接の裏でこうしたふれあいが多く生じていたことがわかります。

今年の夏、ペリー横浜上陸一七〇年を記念し、館蔵コレクションの中から選りすぐった絵図、古文書、絵画などを中心に、ペリーの横浜上陸と当時の横浜村やその周辺の様子を紹介する展覧会を開催します。「横浜日記」も初お披露目の予定ですので、ぜひお越しください。（文 小林紀子）

「ペリー横浜上陸
170年記念企画展」（仮題）
令和6年7月13日（土）～9月1日（日）



「横浜日記」より
（上）応接所と小倉藩・松代藩陣営の図
（下）生麦村から横浜応接所をのぞむ

活動報告①

休館中の横浜市歴史博物館

横浜市歴史博物館は、令和五年十月二日（月）から令和六年二月二日（金）まで四か月ほど休館いたしました。「チラー」という空調関係の機械設備を更新するためでした。チラーは、収蔵庫や展示室の温度と湿度をコントロールするために必要な冷水や温水を作り出す、まさに博物館にとって要となる機械です。今回、博物館の竣工から二十九年を経て、交換することになりました。

更新工事の期間中も、資料の調査や研究、企画展の準備、また館外での教育普及活動など、さまざまな活動を行いました。ここでは、その一端を紹介いたします。

十月には展示解説ボランティアを対象に、小学校三年生向けの解説研修会を行いました。当館の野外施設である「大塚・歳勝土遺跡公園」の一角には港北ニュータウンにあった名主の家「旧長沢家住宅」を移築した「都筑民家園」があります。毎年十二月から二月にかけて小学校三年生の子どもたちが、「昔のくらし」を学びに訪れます。カマドや囲炉裏はもちろん、障子や畳にも馴染みがない子どもたちに、電気がなかった百年くらい前のくらしの様子とともに、現代に活かすことのできる生活の知恵や工夫を伝える研修です。十一月に遺跡公園の見学に訪れた

小学校三年生には成果を活かした充実した解説を行い、好評を得ました。再開館後も、展示ボランティアの解説にぜひご期待ください。

また、一月には横浜市役所の一階で、「令和五年度 横浜市指定・登録文化財パネル展示」を開催しました。令和六年二月三日（土）から三月十日（日）まで開催する「令和五年度 横浜市指定・登録文化財展」のプレ展示と位置づけ、本年度新たに指定された文化財と、近年行われた文化財の修理をパネルで紹介しました。また一月十七日（水）

プも行いました。お二人の軽快なトークは、平日にもかかわらず会場を埋め尽くしたお客様が大いに楽しませてくれました。

この他にも、重要文化財「関家住宅」や横浜市認定歴史的建造物「中山恒三郎家」の公開、遺跡公園工房でのワークショップ、市内小学校への訪問授業、みなきたマルシェと連携した出張街頭紙芝居など、休館中でも止まることなく活動は継続してきました。

令和六年度はいよいよ開館三十周年を迎えます。引き続き、皆さまからのご支援をいただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。

（文 刈田均）



「都筑民家園」での解説研修会



山本勉先生とみほとけさんのトークイベント

活動報告②

はじめての小机城発掘調査

学習院大学輔仁会史学部OBインタビュー！

港北区小机町の「小机城址市民の森」の敷地は、室町・戦国時代の城・小机城跡です。築城時期は不明ですが、文明十年（一四七八）に太田道灌が城を攻撃したという記録があり、十六世紀初め頃には戦国大名小田原北条氏の支城となりました。天正十八年（一五九〇）以後に廃城となり、江戸時代には幕府の御林として保護されたようです。

時代が下って、第一回東京オリンピックの行われた昭和三十九年（一九六四）、第三京浜国道の工事で小机城の一部が削り取られました。この削平部分から複数の柱穴が見つかったため、当時根津美術館学芸員だった奥田直栄氏の指導する学習院大学輔仁会史学部（歴史クラブ）が、緊急調査を行いました。調査期間は短く、十月・十一月と翌年の五月のそれぞれ数日ほどです。

学生だった彼らは、授業の合間もしくは休日を利用して参加したようで、クラブの機関誌に載る参加記には、スコップを担いで電車で行った事、初めて遺物を掘り出して感動した事、晩御飯の後に遺構や遺物のデータから考察を書くのが苦しい事など、懸命に作業に臨んだ様子が記されます。け

れども当時の詳しいデータや図面などは長い年月の間に失われていました。彼らの調査から六十年目を迎える令和六年に



西曲輪西側土塁にのぼって集合写真（皆川満比磨氏提供）



令和5年11月5日 インタビューを終えて（於・目白）

の他クラブが見学に来たり、城の曲輪で鍋を囲んだりした事などを話してくださいました。その後も、ご参加いただけなかった方の情報が続々と集まって、今後も新たな発見がありそうです。

インタビューの内容は、当時の小机城や周辺の歴史とあわせて、映像作品にまとめるつもりです。どうぞご期待ください。

（文 阿諏訪青美）

レキハクファーム通信 7

[X (旧 twitter)] https://twitter.com/rekihaku_farm
横浜市歴史博物館レキハクファーム通信 (@rekihaku_farm)
で日々の活動の様子をつぶやいています！



陸稲、大豊作!? ……土づくりは大事

民俗担当です(´o`) いつもながら本号も、ゆる〜い連載のレキハクファーム通信7号です。

平成30年(2018)6月からスタートした畑で作れるお米「陸稲」を育てるプロジェクトも今年で4回目。前号では春の種まきから初夏にかけての様子をお伝えし、今年は大豊作かも?と報告した米作りの続報です。

冬の寒起こし。夏の追肥に除草と、例年以上に土作りや畑のメンテナンスに力を注いだのが本年の陸稲作りでした。農作業の基本としては至って当たり前の事ではありますが、昨年は無施肥でトライするなど毎年さまざまに米作りの条件を変えているのがレキハクファームの取り組みです。

そういう点では、基本に立ち返って米作りに取り組んだ本年は、前号の予測どおり、これまでで最大の収穫量となる大豊作!(言い過ぎか?)の結果を迎えることができました。

稲刈→脱穀(稲穂から籾を取り外す)→籾すり(籾がらをはずし玄米とわけ)る→選別(割れたお米や未成熟のお米を取り除く)と作業を進めたところ、500グラムの玄米を得ることができました。

万歳と言いたいところではありますが、課題も見えてきました。今年種まきをした84株すべてが実ったわけではありません。レキハクファームには4つの畝を整えているのですが、通路に面した手前側から奥側

に向かって成長が早くなる傾向があります。これは周辺の畑からの肥料の流入によるものと考えられ、シェア畑の特性ともいえますが、次年度には肥料の入れ方の工夫で対策を試みたいと思います。

稲の成長にあわせて本年は9月と10月と2回の稲刈りをおこないましたが、大豊作を受け、年の瀬も押し迫った12月28日に、5年来おとなりで「LovelyFarm」を作るFMヨコハマLovely♡Dayの番組リポーター、フジタさんに味わっていただくべく、現地で玄米の炊飯にトライしました。

“赤子が泣いてもフタとるな♪”とはよく言ったものですが、生放送のリポートにあわせて火をつけた小さな羽釜の陸稲ごはんは見事に炊き上がりました。生放送のリポート中にふたを取り、炊き立て陸稲の食りポでしたが、プチプチした食感、噛めば噛むほど甘みが広がる玄米の美味しさに「おいし〜い」と言っていただけのがとっても嬉しかったです。

かつて都筑の畑では多く育てられていたという陸稲、今ではまったく見ることはありませんが、今さらながら土づくりの大切さ、そして本当に畑でお米が獲れることを実感した瞬間でした。来年は、均等な成長と再びの大豊作を目指して陸稲作りに励んでいきたいと思っています。

(文 羽毛田智幸)

レキハクファーム DIARY

植えたもの 陸稲「農林24号」

8月7日 水やり

8月14日 水やり
4畝全体に稲穂が
実り始める

8月21日 水やり

8月28日 成長の確認

9月11日 成長の確認



9月19日 成長の確認

9月27日 ファーム初登場の美術担当と
奥側2畝の収穫

10月11日 ファーム初登場の広報担当と
手前側2畝の収穫

12月28日 おとなりのLovelyFarmの
フジタさんと陸稲の試食



大塚・歳勝土遺跡公園だより

「よこはま縁むすび講中」と 「かやぶき屋根プロジェクト」5



▲「縁むすび講中」での連携講座の様子

令和5年度の「かやぶき屋根プロジェクト」は例年の活動に加えて「よこはま縁むすび講中」との連携を強めることができました。

例えば、「よこはま縁むすび講中」メンバーである青葉区の横浜市民ギャラリーあざみ野と都筑区の横浜市歴史博物館の学芸員がトレードし、互いの施設でそれぞれの魅力を語る連携講座を1月20日(土)と2月10日(土)に実施しました。

連携講座のうち、1月20日(土)に横浜市民ギャラリーあざみ野にて「かやぶき屋根プロジェクトって何?—弥生時代の家を自分たちで少し直してみようと思ったら、いろいろな人たちと知り合えた話」をさせていただきました。「かやぶき屋根プロジェクト」の活動をとおりて今まで接点の無かったいろいろな人と出会えて博物館での活動もより広がった旨、講座という形で話をさせていただきました。

2月10日(土)、「写真が可視化したもの」と題して横浜市民ギャラリーあざみ野が所蔵している横浜所蔵カメラ・写真コレクションの19~20世紀のカメラと写真をご紹介します。写真がどのように私たちのものの見方に影響を与えてきたのかをお話いただきました。



茅葺屋根を修繕することを起点に、博物館活動のみならず地域に関わっていくことで、より多くの人に知ってもらい参加いただけるような「かやぶき屋根プロジェクト」を続けていくつもりです。よろしくお願い申し上げます。(文 橋口豊)

◀「かやぶき屋根プロジェクト」の活動では、引き続き、茅葺き屋根の修繕を行いました。

よこはま
縁むすび講中



<http://yokohama-enmusubi.jp>

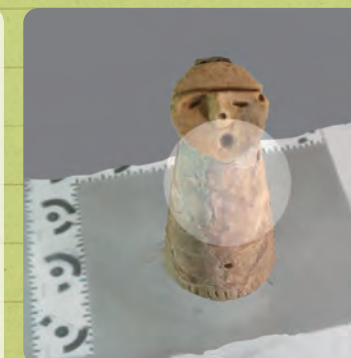
はらでぐちくん
原出口遺跡出土
筒形土偶



ペーパークラフトのぼく、デコラティブに

じゃじゃ〜ん!
ぼくのグッズ化が進んでいるよ!

これまでにぼくの分身として3Dモデルやペーパークラフトが作られて、みんなの前に登場してきたよ。そして今、ぼくのさらなるグッズ化が水面下で進んでいることをキャッチしたんだ。まだはっきりしたことを言っては駄目なようだけれど、いろいろ決まったらまたおしらせするから期待して待っていてね!



企画展で使われたぼくの3Dモデル、とてもキュート



発掘調査の魅力と 遺跡の保存・活用

館長 佐藤 信

遺跡の発掘調査の成果が、古
代から近代に至る日本史像に大
きな影響を与えてきています。
一九六〇年代半ばからの高度経
済成長のもと、全国の発掘調査
件数が激増し、開発の事前発掘
調査によって遺跡・遺物から得



昭和48年の発掘調査の様子（都筑区・大塚遺跡（甘粕班が担当したC9遺跡））

られる歴史像が、日本史を具体
的に肉付けしてくれるようにな
りました。今日に残る文献史料
がどうしても中央・貴族中心の
歴史を伝えているのに対し、各
地の発掘調査成果は、地方・民
衆の歴史像を明らかにしてくれ

ます。私も、「東
京には歴史がな
い」と思っていた
のに、大学に入學
した昭和四十六年
（一九七二）から
発掘調査に参加す
るようになり、自
分の足元に古代の
人々の足跡がよく
遺っていることに
気づきました。そ
して、専攻しよう
とした時代対象
は、近代から古代
へとさかのぼった
のです。

大学初年の少人
数ゼミでご指導を

受けた甘粕健先生のもとで、同
級生の早乙女雅博氏とともに、
学生時代は主に古墳の発掘調査
に参加しました。二年生から神
奈川県秦野市の桜土手古墳群の
発掘に加わり、休暇中も入りび
たって、四年余り続きました。

桜土手では、諸大学の班がブレ
ハブで共同生活しながら、連日
各古墳の発掘に汗を流しまし
た。夕方には、その日の調査成
果を検討して次の調査方針を決
める打合せや勉強会を行い、夜
にかけて先生・先輩から様々な
調査・研究の経験を教えてもら
いました。夏の現場など体力的
に苦しい時もありましたが、若
さもあり、夜の懇親会や仲間
で現場を詠んだ替え歌を作るな
ど、楽しい思い出が残っていま
す。好きな学びに励む喜びこそ
あれ、「3K」（きつい、汚い、
危険）などと感じることはまっ
たくありませんでした。

現場終了後に、図面の整理や
原稿化など報告書作成段階まで

経験したことも、大変勉強にな
りました。甘粕ゼミで、高名な
報告書を取り上げて最初の序文
から最後の奥付まで全文をじっ
くり読み合わせ、発掘を再体験
したのも良い思い出ですが、発
掘調査現場を最初から最後まで
一通り体験できたのも、ありが
たいことでした。

発掘調査では、各トレンチで
日々明らかになる新情報に応じ
て、遺跡の理解が刻々と変化
し、翌日の発掘方針も次々変わ
ります。こうした「試行錯誤」
の過程が、発掘の醍醐味でもあ
ります。その際、調査対象に対
する豊富な知識が必要な一方
で、知識を先入観化して予断す
ることなく、考古学的な事実を
常に新鮮な眼で客観視して、全
体像を総合的にとらえることが
求められます。これは日本史学
という史料批判にあたり、考古
学の実証性を担保する手続きで
もありません。遺構・遺物の検出
状況という客観的事実から、ど

のように遺構を解釈して考察へ
と帰納するのか、公平な判断が
試されます。こうした解釈・考
察過程を批判的に検証すること
により、考古学の客観性が保証
されるのだと思います。

私が奈良文化財研究所に勤め
ると、平城宮跡で協業にもと
づく組織的な発掘調査にたずさ
わりました。その中で木簡の出
掘を例にとると、木簡の出土状
況の把握がいかに大切か、身に
しみました。岸俊男先生（木簡
学会初代会長）は、木簡の資料
的価値の半ばはその出土状況に
あると言われました。木簡は考
古学的な遺物であり、出土状況
や形態は、木簡に書かれた文字
と同様に重要な構成要素です。

木簡の文字は、後で赤外線画像
なども用いて皆で訳読できます
が、木簡がどのような遺構から
どのような状況で出土したのか
は、調査者にしかわかりませ
ん。出土状況は、調査者が責任
をもって記録することが求めら

れます。

さらに発掘調査した遺跡・遺
物をもつ歴史的な価値を明らか
にすることは、調査者に課され
た課題だと思います。報告書
を作成して遺跡・遺物の検出状況
や価値を発信でき
るのは、まず発掘
担当者です。こう
して遺跡・遺物の
全体像や価値が明
らかなり、それ
が注目すべき場合
には、遺跡が史跡
に指定されて保存
されることもあり
ます。こうして保
存された史跡は、
さらに地域の人々
とともに保存・活
用されてその価値
を高めていくこと
が望まれます。発
掘調査を行う際
には、こうした遺跡
の全体像・価値や



昭和50年頃の
発掘調査の様子
（都筑区・大塚遺跡）

保存・活用の将来像まで視野に
入れていただけるとありがたい
と思います。

開港後の横浜は、国際貿易港として発展し、世界への出発点であり、入り口でした。そこには各国から旅行者や仕事で外国人が集まり、様々なものを土産物として購入し持ち帰りそのなかに美しい水彩画がありました。そして、その多くは今や忘れ去られ無名となった画家たちによるものでした。なかでも作者名が判明する作家の一人として笠木治郎吉がいます。

明治時代中頃から横浜で活躍した笠木治郎吉は、水彩画とは思えないほどの密度の高い筆致で描きます。

平成三十年（二〇一八）当館で開催された「神奈川の記憶」展において、遺族が長

年に渡り集めた作品が展示され、令和二年当館にご寄託をいただくことになりました。

その後「おかえり美しき明治」展（府中市美術館、令和元年）や、「発見された日本の風景」美しかりし明治への旅（京都国立近代美術館、令和三年ほか）などの開催により、近年注目を集めるようになっていきます。

まだまだ、わからないことの多い開港期の横浜の美術について笠木治郎吉をふくめて、今後展覧会ができるように調査研究を進めていきたいと思っています。

（文 吉井大門）



《朝やけ（雉）》
紙・コンテ、墨、鉛筆、大正9年（1920）
56.0×39.1cm
かさぎ画廊所蔵、横浜市歴史博物館寄託



《海辺の兄弟》
水彩・紙、明治35年（1902）、68.0×49.7cm
かさぎ画廊所蔵、横浜市歴史博物館寄託



《網を打つ漁師》
水彩・紙、明治35年（1902）頃、50.7×34.6cm
かさぎ画廊所蔵、横浜市歴史博物館寄託

博物館ニュース五三・五四号で修理の経過報告をしていた向導寺阿弥陀如来像の修理が令和五年三月に無事完了しました。修理後のお姿は、「令和五年度 横浜市指定・登録文化財展」（二月三日～三月十日）で初公開しています。

このお像は、室町時代末頃に開かれた向導寺の旧本尊です。平安時代後期、十一世紀に造られた阿弥陀如来像で、横浜市指定文化財第一号でもあります。関東大震災で大破して以来、長らくバラバラの状態で保存されていましたが、令和四年度によりやうく保存修理が行われました。

修理前の写真と見比べると、後の時代に塗られた表面の仕上げが取り除かれて、こ

の像が造られた当初の整った丸顔と三日月のようにきれいに湾曲した眼がよりよく見えるようになったのがわかります。後から塗られた表面仕上げの下は、虫喰いによる損傷と木材の腐朽が進行して脆くなっていました。これ以上の損傷を防ぐため、木材が腐っていくのを抑える処置をしたうえで人工木材を使って補強し、新たに補強した部分は周囲と違和感のないよう色が補われています。

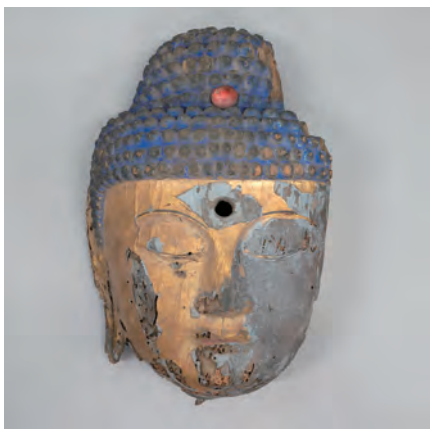
また、バラバラになっていた各部材は、接合位置を慎重に見極めて組み直され、平安時代後期の優美な姿を取り戻しました。

修理後の姿が、お寺で拝観する仏像のよ

うな金色ではなく、また背中や頭部に大きな穴が開いたままであることに違和感を抱く方もいらっしゃるのではないかと思います。一年間にわたる修理期間に、所蔵者や専門家、修理技術者などを交えた協議会を何度も重ねたうえで、いま無い部分や色を復元することはせず、お像を安全に保管するうえで必要最低限の補いだけをするようになりました。

向導寺阿弥陀如来坐像はこれから、博物館でお待ちしておりますが、多くのみなさまに見ていただけるよう公開の機会は今後とも用意したいと思っています。

（文 花澤明優美）



上：修理前 下：修理後



修理後
右：正面
左：背面

横浜市歴史博物館は、令和7年1月31日に開館30周年を迎えます。

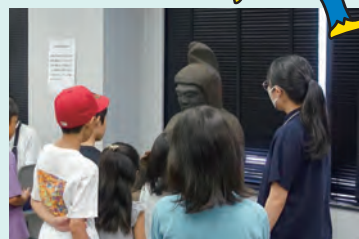
展覧会

- 「令和5年度 横浜市指定・登録文化財展」／企画展「ヨコハマの輸出工芸展」
令和6年2月3日（土）～3月10日（日）
- 企画展「君も今日から考古学者！ー横浜発掘物語 2024ー」
令和6年3月30日（土）～6月23日（日）
- 企画展「ペリー横浜上陸170年記念企画展」（仮）
令和6年7月13日（土）～9月1日（日）

イベント

- ラストサタデープログラム：月の最終土曜日に開催するイベントです
バックヤードツアー〔事前申し込み制〕
普段は見られない博物館の裏側を見学します。ホンモノの資料に出会えるかも？！
※隔月開催、申し込み方法等詳細はホームページでお知らせします。
おもしろいぞ！紙芝居
平成27年に横浜市から有形民俗文化財に指定された街頭紙芝居の複製を中心に美演します。
- れきし工房〔事前申し込み制〕
歴史や文化を楽しく学びながら、オリジナル作品を作ります。
※詳細は随時、博物館ホームページ等でお知らせします。
・人気メニュー：まがたま作り、あじろ編み
- 濱ともデー
毎月最終水曜日、濱ともカードをお持ちの方は無料でご観覧いただけます。

イベントや
ワークショップ等の
開催については、
当館ホームページ、
X（旧twitter）にて随時
お知らせしていきます！



バックヤードツアー（イメージ）

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

●開館時間

9:00～17:00（券売は16:30まで）
大塚遺跡を除く公園部分は24時間オープン

●休館日

月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時休館することがあります。

●常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上、1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生 横浜市内在住65歳以上	100円	80円

■企画展の観覧料は別に定めます。

■毎週土曜日、小・中・高校生は無料です。

■横浜市内在住の65歳以上の方は「濱ともカード」など証明
できるものをご提示ください。

■「身体障害者手帳」「愛の手帳（療育手帳）」「精神障害者保健
福祉手帳」をお持ちの方と介護者は無料です。入館の際に
手帳または、スマートフォンアプリ「ミライロID」の手
帳画面をご提示ください。

■補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）と一緒に入館できます。

会期・開催時間等の予定を変更する場合があります。最新
情報は出かけ前に、当館ホームページまたはお電話にて
ご確認ください。

●交通

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
駐車場あり（30分100円）



横浜市歴史博物館

YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-18-1

Tel.045-912-7777（代表） Fax.045-912-7781

<https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

X（旧twitter） @yokorekihaku

横浜市歴史博物館ニュースNo.56 2024年2月29日発行

編集・発行 横浜市歴史博物館

デザイン 株式会社フィールド・ノート、柳原梢子（やなぎ堂）